

本願寺の東西分派 教如上人と東本願寺

東本願寺を創立した、本願寺第十二世(門首で真宗大谷派)派祖・教如上人は、戦国三武將と渡り合った豪傑であった。徳川家康の庇護のもと、本願寺の東西分派を成し遂げた上人の四百回忌法要を、今春お迎えするに当り、東本願寺の生みの親・教如上人を偲んでみたい。

教如上人は、父・本願寺第十一世(頭如上人の長男として)一五五八(永禄元年)年大坂(石山)本願寺に生まれ、一六一四(慶長十九)年五十七歳で亡くなられた。今年には四百回忌に当ります。



教如上人

戦国乱世・石山合戦
教如上人の生きた時代は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の時代で、頭如上人を補佐してこの三人の天下人とも直接渡り合ってきました。

一五七〇(元龜元年)年教如上人十三歳の年に、信長が石山(大坂)本願寺を攻めた石山合戦が起り、十年余りの長きにわたりこの戦は続きました。

信長は戦国乱世を統一するに当たり、宗教勢力の権威打破を一つの路線とし、その対象が本願寺とその門徒集団・一向宗だったのです。

当時の本願寺は、念仏者同行として結ばれた門徒組織で、経済力と軍事力にも優れた巨大勢力でした。本願寺には、信長のような天下統一の野心はありません

教如上人は、徳川家康に急接近する行動に出ます。一六〇〇(慶長五年)年、関ヶ原の合戦が起り東軍家康側の勝利となりましたが、それから僅か五日後には、教如上人が大津に家康を迎えて面会をしています。

教如上人と家康との間で何が話されたのか実証できないが、教如教団の独立、「本願寺の別立」の件であったことは言を俟ちません。

東本願寺創立

一六〇二(慶長七年)年、家康は京都東六条の地を教如上人に寄進しました。この地に教如上人が創立したのが現在の東本願寺であります。

寺地の寄進を受けた教如上人は、早速、飯御堂を建立し、上野國飯橋(群馬県前橋市)の妙安寺に伝来する、宗祖親鸞聖人の御真影をお迎えされました。(注：この御真影上落には、当景教区第十一組廻運寺住職・唯宗が深く関わったことは赤羽御坊第24号、カルチャーワークに記述)

この御真影は、聖人が関東から帰洛の際門弟の妙安寺、成然に形見として、自ら刻んで与えたものと伝えられます。一六〇三(慶長八年)年に阿弥陀堂が、翌年に御影堂が完成し御真影が移されました。

このようにして「本願寺の東西分派」が成り、東本願寺が誕生したのであります。教如上人は、本山直轄の寺であり、末寺門徒の地域的結束を図る教化の拠点としての御坊(別院)の整備に努められ、全国各地に十八ヶ所の別院の開削・再建を果たされました。

昨年が続いて古田和弘師による 真宗講座 正信偈に学ぶ

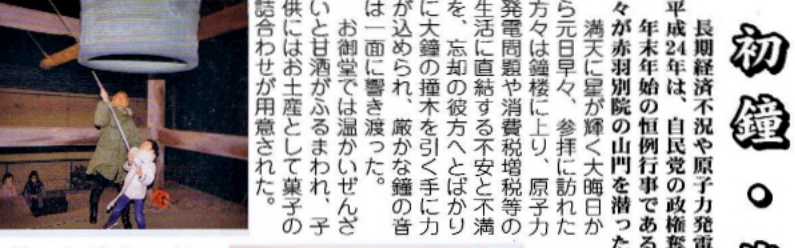
皆さんのなかには、お手次の寺院の行事や身内の法要、或いは家族の毎日のお勤め等に接するうちに、正信偈を暗記してしまったという人がおみえになると思います。私たちが真宗門徒にとって正信偈は、毎日の勤行で用いるとても身近で親しまれているお聖教ですが、その意味についてはご存知なかったり、考えたことがない人がたくさんお見えになるのではないかと思われます。

赤羽別院では、昨年引き続き大谷大学名誉教授・古田和弘師をお招きして「正信偈に学ぶ」をテーマとする真宗講座(全三回)を開催することとなり、その第一回目が1月22日に開かれました。今回は「正信偈のうち」(如来所以興出世)から「不断煩惱得涅槃」までについてお話をいただきました。



古田師による講話

正信偈のなかで、釈迦尊と呼ばれるところの一部で、文字どおり釈尊の教えについて述べられています。古田師は、本来は漢文である2月26日に開催されました。



輪番による講話

和讃は初詣に、お文は一帖目に戻る修正会は、毎年のことながら仏縁に感謝し心新たに、今年もお語りし励んでいくことを期し、誓いを立てる法会である。輪番自らの法話と、この後のお節をいただきますが、この座談会は格別の一時です。

双全講を厳修

去る1月15日、赤羽別院の伝統ある「双全講」が今年もお勤めされた。午前中、追甲会と永代祠堂法要が勤められ、第25組守綱寺住職・渡辺晃純師の法話で



渡辺師の法話聴聞

は、私たちの身の回りで日常のおこっている出来事を仏法を通して話され、我が身に照らし出す。つたさを感じ、人間の本質・愚かさを明らかにしたお話を聞いた。

声明儀式作法 研究会

境内の梅の蕾がなかなか膨みみせない2月7日、赤羽別院のお御堂には、声明作法を学び確認をしよう、崇敬区域を越えた参加者や、大勢の僧侶が参加して儀式部主催の「声明儀式作法研究会」が開催されました。



研究会のようす

この研究会には、この道の大家・元本山堂衆一騰で、儀式指導研究所の菅生考純師を講師にお迎えしたこともあり、参加者全員が一音も聞き渡らすまじと拝聴し、真剣にメモのペンを走らせるなど、真向きの僧侶の姿を伺うことができました。

研修のテーマは「法事でのお勤め」であり、その中味は近い将来あちこちの寺院でお勤めされる「親鸞聖人七五〇

初鐘・修正会

長期経済不況や原子力発電の行く末等々揺れ動いた平成24年は、自民党の政権奪還でその幕を閉じた。年末年始の恒例行事である初鐘・修正会には大勢の人々が赤羽別院の山門を満った。満天に曇が輝く大晦日から元旦早々、参拝に訪れた方々は鐘楼に上り、原子力発電問題や消費税増徴等の生活に直結する不安と不満を、忘却の彼方へとばかりに大鐘の撞木を引く手に力が込められ、激が鐘の音は一面に響き渡った。お御堂では温かいせんざいと甘酒がふるまわれ、子供にはお土産として菓子の詰合せが用意された。

修正会は、午前7時からお朝事会の方々中心のお詣りによりお勤めされた。

坂東曲の報恩講参拝

第14組専興寺門徒 宮脇貴子



坂東曲の勤行(東本願寺提供)

坂東曲でお勤めされる報恩講にお参りしないか?と声をかけられ、昨年11月27・28日に本山報恩講の団体参拝に参加しました。毎年、私が決まった日にお参りする本山は、報恩講の終わった後の広くて静かな本

堂なのですが、初めて目にした報恩講はお坊さん的人数がとて大勢で、お参りの方も全国から集って来られ超満員の賑わいでした。偶々お話しした愛知県からお参りの三十代の男性は、朝3時に家を出られたとのこと、御真影正面の最前列に席を占めてみました。その信心の篤さに感服するのと同時に、真宗門徒の私の今後に大いに参者にすべきことと思えました。

坂東曲は、親鸞さんが船の上で読経されるようすを表わしたものと、関東のお弟子さんが親鸞さんを訪ねて、喜びの気持を表わしたという説もあるそうです。数えきれない程のお坊さんが、身を大きく揺らし、頭を前後左右に傾けて、声の限りに念仏を称えられる姿に感動しました。初めてお参りした坂東曲で心の奥が揺れる中、本山を後にし紅葉で有名な光明寺に向いました。本堂への参道は色彩のグラデーションが見事な紅葉のアーチで、「わあ、きれい!」の一言に尽きました。境内にいるとき見上げた空は、屋根の上から御光がさしているかのように見え、た雲の動きに、何か得をした気分になりました。色んな意味で、私の心に印象深い本山報恩講でした。



近年一人が亡くなったら葬儀をせず、そのまま火葬し散骨するなど、人の死を無用なものとする「風潮」が、第14組教化委員会では去る2月16日、講師に第

壮年対象真宗講座 葬儀から教えられること

25組守綱寺住職渡辺純師を招いて「葬儀から教えられること」と題し、第54回壮年対象真宗講座が開催され、会場のまごころライフサービス・まごころ館には百十名を越す大勢の参加者が駆けつけた。



超満員の会場

講座は、3名の意見発表を聴いてから、渡辺師の講義という形で進められた。意見発表では「友引に葬儀を執行した専興寺住職浅野伶師は、その経緯や「迷信や古い」に頼るのは己の心の迷いであると話された。西光寺門徒林垣内瑞枝氏は、両親や義父を亡くされた経験から、亡き人と別離の仕方やお内仏の意義を語り、会場には大きく頷く姿が見受けられた。最後に葬儀社長の渡邊寛人氏より、葬儀は故人が生前のお世話になった方への「ありがとう」を喪主が受けて

行う場、参列者は故人に對しお世話になり「ありがとう」の意を示す場であり、そのお手伝いをさせて戴くのが私達の仕事で葬儀を「ありがとうの儀式」と考え執行してまいりますと語られた。講師の渡辺師は常に仏教の教えに照らされた葬儀を執行されており、その内容と具体例をお話し下さった。最後に、参加者から「現在在は殆んど自治体で友引は火葬場が休みですが、友引にも葬儀ができるように積極的に働きかけをして下さい」との発言があった。※渡辺師の講義内容については詳細を7月号(35号)に掲載の予定です。



鸞恩・あかほんくんに歓声

西尾教会が主催する報恩講は、昨年十二月十八日、西尾市末広町の西尾教会において開催された。恵保育園の年長児六九名が、お寺さんの調声により大きな声で正信偈の唱和を了えたと、年中さん以下が加わり三百名を越す園児が教会に集った。

ゲームをしたり、人形劇を見て楽しいひと時を過ごした後、本山で活躍中の着ぐるみ「鸞恩くん」とあかほんくんが登壇し、会場は割れんばかりの歓声に沸いた。あかほんくんの表紙裏に記された「ちかい」を全員で朗読してからの、着ぐるみさんとの握手会では、皆が喜ぶ満面の笑顔を見せ、最高の盛り上がりを見せた。三つ子の魂百までといいますが、報恩講で見た園児たちの純な姿を見るにつけ、危惧される真宗の将来に一筋の光明を見る感があった。恵保育園での開催は七年前からこのことであるが、未永い継続が望まれます。

一年に一度は赤羽別院へ 鸞恩・あかほんくん登場

ご存知ですか? 前傾の阿弥陀如来像

当別院のぞ本尊「阿弥陀如来像」は、昭和34年の伊勢湾台風で倒壊した旧本堂の本尊をお迎えし、安置されていきます。現在のお御堂とのバランスから考えると相当大型サイズといえます。このことは、前の本堂が開口11間の荘厳な伽藍であったことを証すものであります。そのため、一般寺院に比較するとかなりの前傾姿勢となっております。これは、外陣や大間より尊顔をよく仰ぎ見ることができるよう、前傾の角度を特別に大きくしたものです。真宗の本尊は「方便法身の尊形」です。親鸞聖人は「法身はいろもなし、かたはちもましまさず」といっておられます。つまり、法とは真理です。しかし、我々は現実には色・形のある世界に住んでいるから近づけないのです。そこで、法が阿弥陀仏となり、今現在説法されておられるのです。南無阿弥陀仏



我が家は、仏壇と神棚が祀ってあります。真宗門徒は「弥陀一仏」といって、阿弥陀さまだけをお参りする習慣がありますが、私は毎朝仏壇の扉を開けて手を合わせ、神棚に向って拍手を打ってお参りして一日が始まります。私の両親は既に他界してしまっているため、全ての仏事を私が行っています。本来なら、毎日正信偈のお勤めをすべきですが、つい手を合わせるだけになってしまっている反省をしています。また、私が一人暮らしであるため、ご飯を炊かないことも多く、お仏飯をお供え出来ない日があり、仏様には大変申し訳なく思っています。とはいえ、法事の前には一人でお参りやおみぎをするなど、真宗の教えを大事にしており、時間の許すかぎり別院や手次寺の行事にお参りし、法話の聴聞や仏様に触れることに心掛けています。ただ、お寺にお参りされる人は高齢者が殆んどで、四十二歳の私が最も若年というのが現実で、このことは大変残念であり寂しいことです。先細り感のある仏教の将来を考えると、真宗のみならず、お寺から門信徒に対する積極的な情報提供が必要ではないかと思われます。これからも浄土真宗の教えやしきたりなどを勉強して、法義の相続に努めて参りたいと考えています。

門徒の声 我が家の仏事

食事処

花友食堂

西尾市吉良町吉田交改98
☎0563(32)0067
☎(0120)006782

定休日:毎週水曜日
営業時間:午前11時~午後9時30分

思いやりとまごころの

お仏壇の たなか

TEL 0533-67-9700

株式会社 蒲郡田中仏具
蒲郡市拾石町塩浜63番地

いつでも「ありがとう」の気持ちで「真心」をこめて

MAGOKORO LIFE SERVICE

まごころライフサービス株式会社

本社 碧南市新川町1-24 0566-41-0188

真心ホール碧南中央 碧南市千原町11-7 0566-46-0288	真心ホール浄心 碧南市栗山町3-50 0566-43-5757
安ら館安城 安城市大山町2-11-8 0566-73-6565	まごころ館(旧豊成院) 碧南市天王町2-49 0566-43-4680

三河の中心道場

岡崎市 三河別院を訪ねる

「お婆ちゃん、ナンマンダブで育った。子供心に宗教は解らないが、「お内仏とフツツ言っているお婆ちゃん」が僕の宗教的体験の全てであり、生活の原風景なんだ」と話してくださる先輩の言葉に出遇った。

宗祖親鸞上人(在世の開教と通如上人の三河巡教により、この地域は早くから御法の御化導を賜り、お念仏をよくこびとする大勢の真宗門徒をお育ていただきました。



三河別院(中央・本堂)

通の要衝に赤羽別院(現・西尾市一色町)が誕生しました。明治になって本山両堂再建途上に、諸事情により赤羽別院と暮戸説教場(会所改め)を岡崎に移し、三河別院とする旨の通達が敷如上人から発せられました。

り、時を紡ぐ者として今が問われる思いであります。三河別院は、西尾市と碧南市を除く三河地区二ヶ組・二四〇ヶ寺を崇敬区とし、境内地を接する岡崎教務所と併せその機能を発揮している。かつて、別院開創百年を迎えた折に、巖百蔵のご老僧への「言ひ遺しておきたこと」の問いかけに、「昔の別院は報恩講と報徳会には、三河中の坊さんが参ったもんだ。西尾方面は赤羽別院があるが百年を期して東三河の連中、共々一結になって法要を勤めてほしい」との先人の区別を超えた言葉に触れ、改めて一貫宗門徒としての座に立ち返られました。

様々な木や花の芽吹き季節、真宗縁りの地を訪ね、直に機縁に出遇われば如何でしょう。 ※三河別院開創百年記念誌・三河の真宗より一部抜粋

◆お内仏に供養があります。よく見ると、金色の面と黒色の面がありますが、どのように用いるのでしょうか？

図① 真宗大谷派の荘厳
図② 赤丸内が供養

◆お詫びと訂正

赤羽御坊第33号に誤りがありました。お詫びし訂正を致します。

P・2 左上見出し 動行を動向に
P・3 吉崎礼二郎住持住所を
愛知県西尾市一色町赤羽に
P・3 正住持職大谷正浩師を大谷正浩師に
P・4 白鳳瓦柳杉浦速雄師を杉浦速雄師に

赤羽御坊新聞御懇志

・ 嚴西寺同行中様
・ 願正寺同行・中川勝己様
貴重なお懇志を有難うございました。

もったいない
もったいない
生かされて生きて
南無阿弥陀仏
第14組等覺寺

エッセイ 赤い羽根の青い鳥

青い鳥の去ったあと

最終回
千ルとミ千ルが見つけた青い鳥は、ふとした隙に二人のもとを離れ、外の世界へ逃げ去っていった。これが「青い鳥」の物語のラストシーンである。あれ？「青い鳥を見つけた二人は幸せに過した」と「ミ千ルはさびしい」と「青い鳥の去ったあと」エッセイで、ミ千ルを

深く掘り下げて論じている。五木氏曰く、人はいつか真実に気がつくが、気づいた時にはもう遅く、すでに「青い鳥」はそこにはいない。私たちの人生はそんなものではないだろうか。…。思うに、真実というのは、こちら側に引き寄せられて振り回されていく「モノ」ではない。むしろ、真実を手にしたと錯覚し、それを振り回してその場に座り込もうとする私たちに、「そこではないよ」と呼びかけ、歩み続けることを促す「ハタラク」こそが真実なのでは。今を去ること五百年以上も昔、私たちの先輩もこう仰っているではないか。心得たと思うは、心得ぬなり。

新年行事 懇談会
別院がお勤めする報恩講などの法会の際、お斎の仕度などのお手伝いをいたただく、地元の方の新年行事の新旧交代懇談会が、12月13日、庫裏において開催された。浅野輪番からの謝辞とお願いの挨拶に続いて、世話方4名を交えた懇談会では、4回の法会での思い出話や問題点などが話題となった。

御坊俳壇・川柳

御坊俳壇・川柳

寺と寺 隣り合わせに 報恩講
御門首の 手植菩提樹 木の芽風
探梅の 赤に惜しみなき 日差しかな
仏堂にと 娘より届きし 冬の菊
一室に 初動行の 声揃う
寒の水 仏花にそそぎ 母のこと
「坊さん」と 呼ぶ里人の ちやんちやん
句の御縁 賜る御坊 福寿草
虎落笛 ふと被災地を 思ひけり
蓮枯れし 池の鯉の 動かさる

川柳 (順不同)

白髪も 遠慮も無し ニット帽
寺の子の 四人目男の子 ばんばんぎ、
数珠五色 揃って正座が 愛しい

杉浦 小冬
新家ゆり子
加藤 久子
濱崎 君江
高須 南帆
服部 喜子
榎山 茂
鎌田 晴枝
粕谷 弘子
平岩 芳魚

大沢 美恵
榎原さらよ
角谷 實苗

「御冥福をお祈り申し上げます。」お葬式などで常に耳にする言葉です。普段、何気なく使っているこの表現に疑義、異議を唱える人に出会った。この方の仰るには「冥」とは光の届かない暗がりというから、亡くなった人は天国や浄土(極楽)にも、鬼や餓鬼・畜生のいる地獄にも行くと、真つ暗な闇の世界、即ち冥土へ行くことと決めつけ、そこで良いことがあるように祈るといふことになる、ということ。これでは、たとえ嫌いな人が亡くなったとしても口にするには憚られる。だから相手の見えない電報でよく使われるのだらう。どんな人間であれ、その存在は尊いではないのか？一緒に生きてきた家族や親しい友人に対して使われたら腹が立つ。